

「考古学おもしろブック」ってなに？ ー児童生徒のみなさんへー

奈良県は、遺跡・古墳・寺院など、文化財の宝庫です。文化財がどうして「宝」なのかというと、まず第一に、数百年・数千年もの歴史をもつ貴重な遺産であるからということ。第二に、それらがつくられたころの情報を現代の私たちに伝えてくれるものでもあるからです。そして、これらの文化財などからさまざまな情報を読み取って、当時の世の中のように人や人々の暮らしぶりを明らかにするのが考古学という学問です。

考古学者の研究は、いつも「どうして？」「なぜ？」から始まります。

「どうして奈良からゾウの化石が出土するの？」

「どうして縄文土器にはいろんな文様がつけられているの？」

「どうして弥生時代に米づくりを始めたの？」

「どうして武器や農具には鉄を使い、祭の道具には青銅を使うの？」

「どうして大きな古墳がつくられたの？」

「どうして飛鳥に宮がつぎつぎとつくられたの？」

「どうして和同開珎の中央には四角の孔があげられているの？」

この『徹底探究！！考古学おもしろブック』は、「どうして？」「なぜ？」というみなさんの疑問に答え、好奇心を満たして、一見むずかしそうな考古学の世界を少しでも理解してもらえるように作りました。

それぞれが独立した形式になっていますので、どこから読み始めてもかまいません。まずは目次をながめて、自分の興味のあるところから目を通して下さい。

また、本を読んで知るだけでなく、実際に自分の目で見たり、手で触れて確かめることも大切です。それができる場所が奈良県立橿原考古学研究所附属博物館なのです。実物を目の前にすることで、新たな「どうして？」「なぜ？」が見つかるかもしれません。

さあ、『考古学おもしろブック』のページをめくって、今まで知らなかった不思議で面白い考古学の世界をのぞいてみましょう！

そして・・・徹底探究しよう！

学校と博物館の連携のために —各学校の先生方へ—

よく博物館で、小学生が難しい解説文をひたすら写しているのを見かけます。その努力は立派なことですが、できることならもっと展示資料と向き合い、そこから発せられるメッセージを発見し、疑問を持ち、自分なりに解決を試みることに時間と力を注いで欲しいと考えています。

学校での学習活動は、先生方の綿密な計画と指導のもとで、学級やグループという集団を基盤として展開されます。これに対して博物館では、見学者が展示資料から自由に何かを学びとっていく個人の活動が基本となります。したがって、博物館での学びには各見学者の興味・関心・意欲が不可欠です。また、博物館での学習を有意義なものとするためには、見学のねらいを明確にしておくことも非常に重要です。

1. 当館の活用

(1) 当館の特徴

当博物館は、奈良県立橿原考古学研究所が1938年以来行ってきた発掘調査の出土資料を通して、日本史の中で重要な位置を占める奈良県の歴史についての理解を深めていただくことを目的として、常設展のほか、特別展・速報展・特別陳列を開催しています。特に常設展「大和の考古学」は、旧石器時代から飛鳥・奈良時代を中心に、室町時代までの実物資料を多数展示し、「目で見る日本の歴史」になっています。

常設展示室には展示解説を行うボランティア・ガイドが常駐し、フリーゾーン（無料開放区域）には映像ライブラリーや情報コーナーなどの施設もあります。

(2) 当館の見学を通して子どもたちに身につけてほしいもの

- ① 考古学や歴史に対する興味・関心・意欲
- ② 考古学や歴史についての調べ方・学び方
- ③ 歴史的なものの見方・考え方
- ④ 文化財を大切にできる態度・意欲
- ⑤ 公共施設を利用する際のマナー
- ⑥ 集団行動をする際の望ましい態度
- ⑦ 生涯学習の場として博物館を利用する意欲

(3)当館での学習形態

博物館を利用した学習の形態は、学習のねらいと深く関わっています。例えば歴史学習の導入として利用する場合は、展示全体の見学を通して子どもたちの興味や関心を高めることに主眼がおかれますので、個人による「課題発見型」の学習形態が望ましいと思います。また、歴史学習の復習や総合的な学習の時間の調査活動の一環として利用する場合は、学校で課題を設定した後の「問題解決型」の学習として、子どもたち同士の議論やコミュニケーションが可能なグループでの見学が望ましいでしょう。さらには、子どもたちが個々のテーマを設定し、調査し、発表するといった「発展学習型」の学習形態も考えられます。

いずれにせよ、子どもたちを指導する先生方が学習のねらいや計画を明確にし、可能な限り当館の下見や事前打ち合わせを実施していただくことが、学習成果をあげる上でも大切であると考えます。また当館では、本書とあわせて、小中学生向けのワークシートや教員向けの指導用資料の充実にも努めております。ぜひともご活用下さい。

2. 本書の活用

博物館では、単に展示を見るだけでなく、また、展示資料の解説文を書き写すだけでなく、どのような視点で展示を見るかが重要です。そこで、子どもの視点に立った展示の見方に関わる参考資料のひとつとして本書を作成しました。

作成にあたっては、各項目のタイトルを可能な限り「どうして〇〇は□□なの？」という形に統一しています。自由研究などでの子どもたちのレポートや発表では、「〇〇について」型のタイトルがよく見られますが、内容的にユニークなものは「どうして〇〇は□□なのか？」といった疑問型になっていることが多いように思います。例えば、奈良時代の和同開珎について調べたレポートであれば、「和同開珎について」というタイトルのものと、「どうして和同開珎は中央に四角の孔があるのか？」というタイトルのものでは、後者の方がユニークで考察にも深みがあるものが多いのです。これは、課題設定が具体的であればあるほど、調査活動や考察においても焦点が明確になるからでしょう。

なお、本書のタイトルの中には、子どもたちの自由な発想で「子どもたちなりの学説」を展開して、活気のある歴史学習を進めてほしいという願いから、学説が並立して結論に至っていないものも取り上げています。

最後に、本書をご活用いただいてのご意見・ご感想・ご要望などを当博物館までお寄せいただければ幸いです。

博物館の風景

